

第3章 漢方の力

◆臨床での応用の仕方

実際の医療の現場では、〈気うつ〉だけでは片づけられずに、咽頭ガンがあったり、肺ガン、肺炎などがあったりすることもあるので、西洋医学的な検査で見つけることは重要です。つまり、常に西洋医学と漢方医学の両方で見ることが大切なのです。

ものの見方、患者の見方は2通りあると考えられ、その1つは、西洋医学的な、病変部や検査所見に基づいて治療を決定していく、ドクターサイドからの見方です。

もう1つは、患者の自覚症状を中心に、どうやって患者さんの訴えを改善しようかという、ペイシャント(患者)サイドのアプローチ、つまり、漢方のアプローチです。

これらはどちらかに優劣があるということではありません。西洋医学と東洋医学の両方の目で見、患者さんに最も適した治療を行っていくことが大切です。
